

木枯らし一号のお天気予報。権現山では、とても寒く「今年初めての冬山ね・・・」なんて話しながらの山歩。登りはじめは曇り空、しばらくすると晴れ間も見られ、すばらしい眺望をあちこちで楽しみ、ナメコも数か所で楽しませていただきました。小女郎ヶ池付近からの蓬莱山の雪景色は、「まるで桜の花が満開のようね。」「きれいね・・・」と暫く魅入っていました。坂下への下山道では、すばらしい紅葉まで楽しみました。下山口近くで小雨。「降らなくて、よかったね」。電車に乗り遅れたりなどで3人キャンセル、雨の中を歩くのを覚悟などで少し落ち込んでいただけに、今日のすばらしい山歩に大感謝・・・。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆自然観察



山は雪だったのね



今年、初の雪景色



今年、初の樹氷



雪の中に咲いていた
イワカガミ



ナメコ

◆トレッキングの様子



曇り空：権現山は眺望はなし。



「山は雪だったのね・・・」



ナメコも少し有り



晴れ、すばらしい眺望お楽しみながら・・・



ホッケ山山頂で



きれいな樹氷の前でご機嫌



樹氷を楽しみながら



眺望も良い



眺望を楽しみながら



小女郎峠



小女郎ヶ池
神秘的な池で今日は草紅葉もきれい



まるで桜の花が咲いた
みたいね



ナメコの収穫体験



「きれいな紅葉ね、いいね・・・」



紅葉を楽しみながら、時に障害物競争のように・・・。

坂下集落に下山。小雨が降ってきた。

◆歴史 ①小女郎ヶ池の悲哀な伝説 ②約 6300 年前にできたと推測される

蓬萊山山頂から尾根筋を南へ下ると県下で最も標高の高い位置（1060m）にあり、地元の人々からは、雨ごいの池として崇められる小さな池“小女郎ヶ池”があります。この小さな池に“小女郎ヶ池”と呼ばれる所縁となる、悲哀な伝説が残されているそうです。

それは遠い昔、比良山麓の南船路という集落に、九右衛門とお考という夫婦が住んでいたそうです。

柴刈りに山頂へ出向いていたお考が、ある日、池の主であった大蛇に魅入られてしまいました。その日から毎晩、乳飲み子を家に残したまま、夜な夜な池に通うようになったお考。不審に思った九右衛門は、ある晩、赤ん坊を背負ってお考の後をつけたそうです。

池の中に入る姿を九右衛門に見られたお考は、大蛇に見初められてしまったことのでん末を話し「赤ん坊が乳をほしがったらしゃぶらせてほしい」と自分の左目をくりぬいて、池の中に姿を消してしまったそうです。

それ以来“考女郎”が入った池だから「考女郎池」...それがいつしか「小女郎ヶ池」と呼ばれるようになったという伝説が残されています。

蓬萊山、山頂は標高1174m、360度遮るものがなく、比良山系の峰々や京都の北山、鈴鹿山系まで見渡せる素晴らしい眺望です。その南西に小さくきらめく水面「小女郎ヶ池」は、約6300年前にできたと推測されており、この伝説を物語るかのごとく静寂な水面がとても神秘的な池です。